

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 松ヶ江南 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

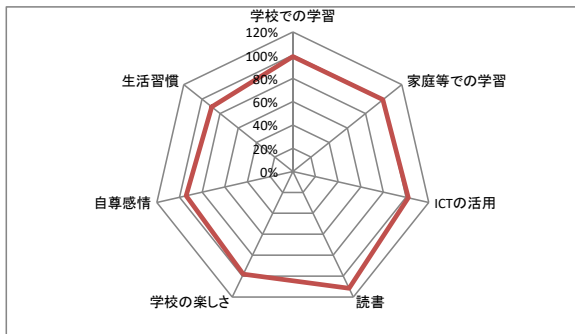
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回ったが、「記述式」の問題で全国平均正答率を上回る問題もあった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	思考力、判断力、表現力において「書くこと」を記述式で問う問題の正答率が全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	知識・技能における「言葉の特徴や使いかたに関する事項」について課題がある。	
算数	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回ったが、「数と計算」の領域においては、全国平均正答率を上回った。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	思考力、判断力、表現力を問う問題において記述式で回答する問題の正答率が全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	データを活用する問題の正答率が全国平均を下回った。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を上回った。特に短答式の問題形式の正答率が高かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「粒子」を柱とする領域に関して正答率が全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	「生命」を柱とする領域に関して正答率が全国平均を上回った。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○「読書」「ICTの活用」は全国平均値を上回っている。「読書」においては、朝読の成果がでていいると考えられる。「ICTの活用」に関してはICT推進チームを中心に職員研修を行い学校全体で、CTを活用した授業づくりに取り組んでいることが結果につながっている。 ○「生活習慣」においては、全国平均値より低い傾向にある。規則正しい食生活や基本的な生活習慣の定着、生活時間の見直し・改善等の大切さや必要性について、保護者へ情報を発信するとともに協力を依頼する。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・「学びの質を高める授業」づくり5つのポイントを主題研修に位置付け、ユニバーサルデザインの視点からのどの子にもわかりやすい授業づくりに取り組んでいる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習に対する課題を受け、業間学習と家庭学習の連携を図ることで、基礎的・基本的学習内容の定着を図るとともに、学習習慣の確立に取り組んでいる。
--